

天と〇と地（あとれとわ）
《あとれとわの塩5年以上》の波動

アクアタック研究室
片岡 章

《あとれとわの塩5年以上》の波動を測定させていただきました。

波動値は、高いほどよい意味になるのですが、結果は、これまでに測定されているもっとも高い数値 S +68.1 と、それに次ぐ S +67.9 のみでした。¹

すごい！—— おそらく、それが第一印象でしょう。でも、ただ「すごい！」で終わったのでは漠然としていますし、108項目もの測定が活かされません。ここから、このお塩の様々な恩寵^{おんちよう}を読み取っていきたいと思います。

波動界の仕組み（すでにご存じの方は次へ進んでください）

まず、この“波動の高さ”って、为什么呢？ そのお話を、わたしたちや自然界を構成する波動の仕組みから始めることにします。

みなさんご自身がいくつもの“^{ボディ}体”から成り立っている、ということは、ご理解いただけるでしょうか。むずかしい話ではありません。肉体・生命力・感情・精神の4つです。

このうち、物質である肉体を除く、目に見えない3つ、それが、波動からなる“^{ボディ}体”です。わたしたちの心身は、これらが重なり合っていてできています。

^{エーテル体}生命力は、肉体を動かす力、^{アストラル体}感情は、好き／嫌い、愛情／憎悪の世界、^{メンタル体}精神は、客観性、知性、愛の世界です。そして、肉体 → 感情 → 精神の順に、波動の高い世界となっていきます。

通常は感情も含めて精神ということが多いですが、神智学²では、これを明確に区別しています。感情は個人的、精神は普遍的、という違いです。

このなかで、今回のお塩の波動値が示しているのは、精神の世界です。その波動は、受け取ったみなさんのなかで、まず精神のレベルに作用し、次いで、感情体 → 生命体 → 肉体 とステージを降りながら、心身全体を^{ととの}調えていきます。

¹ 説明は略しますが、アクアタック研究室の波動値では、小数点以下に0はありません。

² 19世紀、ブラバツキー夫人によって確立された思想。R・シュタイナーは、当初この協会に属し、後に人智学の道を開きました。

《あとれとわの塩5年以上》って、どんな塩？

では、以上を踏まえていただいたうえで、このお塩の持つ特性について。
それをひとことで表現するならば、

天・自然・生命のエネルギーを原初のままに秘めた塩

でしょうか。

つまり、大本の波動が未分化のまま温存されている、ということです。色に例
えると、3原色の赤・青・緑それぞれが目いっぱい輝いている白色光のような。

それはまた、陰陽どちらにも偏らない“中庸”をも意味するでしょう。今回の
測定結果から導かれた「安心度（バランス）」も、それを示しています。

ひとりひとり から 世界 へ

つぎに、みなさんにとって、このお塩とは？

波動の世界は、“共鳴”によって成り立っています。「あの人とは気が合う」
という、あの共鳴です。

なので、《あとれとわの塩5年以上》がみなさんに何をもたらすかは、みなさん次第（共鳴するか、しないか）でもあるのです。

高僧のありがたい説法も、聞く耳を持たない人にとっては、ただの通り過ぎる
音声にすぎませんね。共鳴してはじめて、宝物は活かされます。

こうして、土地が“いやしろち”になっていくように、みなさんひとりひとりの
“あり方”もまた、このお塩によって“いやしろち”となっていくます。

もちろん、受け入れ方は、ひとそれぞれ。各人のプリズムが、白色光から様々な色合いを引き出します。

といっても、それは個人の範囲に留まりません。精神波動のレベルは、他人とも自然につながるレベルです。だから、“客観的”“愛”なのです。

なので、自分がよくなるころには、いつしか、周囲のひともお裾分けに与
っているはず。すそあすか。「ひとのために！」と頑張る必要もないのです。

これは、「みんな仲間だよね〜❤️」というムーディーなつながりではありません。人間ひとりひとりが自立したうえでのことです。20世紀の神秘思想家ルドルフ・シュタイナーも、「人間は神殿である」という新約聖書の言葉を重視しています。各人が自立し自己を確立してこそ、本当にひとびとに寄与できるのではないのでしょうか。

もう少し詳しいお話を

ここまでは、《あとれとわの塩5年以上》の全体的なお話でした。このあとは、測定したいいくつかの項目について、具体的な説明をさせていただきます。それによって、このお塩のありがたさも、より深くご理解いただけるでしょう。

- ✚ 身体の働きや部位の波動（〔ホルモンバランス〕〔肝臓〕〔皮膚〕など）
感情・精神の波動（〔幸福・愛〕〔意志〕〔気苦労〕など）

これらは、わかりやすいと思います。働きをよくしてくれる、元気にしてくれる、ということです。

なお、[^{メッセンジャー}mRNA]は、コロナ禍以降、悪者扱いされがちですが、もともと、遺伝情報を伝達するために備わっているものですから、ここでの波動値も、それを正常化する、という意味であって、解消や削除ではありません。〔低密度リポ蛋白質（LDL・悪玉）〕も同様です。悪玉とされていますが、こちらも、必要なものです。どうも人間には、物事を善玉と悪玉に分けたがるクセがあるようですね。

- ✚ 疾患の波動（〔悪性腫瘍（がん）〕〔糖尿病〕など）

ここは誤解されやすいかもしれません。「悪性腫瘍（がん）（の波動を解消する力）」の波動値が高い、と聞くと、医学や薬学の「がん撲滅！」を思い浮かべるかもしれませんが、そうではありません。むしろ真逆のアプローチです。“やっつける”ではなくて、氣滯（^{とどこお}氣の滞り）を解消し、^{すがすが}がんの気配がない清々しい場をつくり出す、ということです。軍事力による解決と、平和外交による解決、その違いをイメージしていただくとうわかりやすいでしょうか。

- ✚ 塩を摂ることの懸念（〔腎臓〕〔動脈硬化〕〔高血圧〕）

常識的には、少々気になるところでしょう。でも、ナトリウムに偏らない、ミネラルバランスのよい塩であること、あるいは、加工食品や肉の摂取が少ないひとならば、塩を少し多めに摂ってもよいこと、などを考えれば、心配には及びません。それに、東洋医学の陰陽五行でも、「腎」（＝「腎臓」ではありませんが）を養うのは「^{かん}鹹（しおからい）」であるとされています。摂りすぎはいけませんが、過剰な心配は無用です。

ちなみに、私の勤めていたクリニックでは、玄米菜食を基本としていて、腎臓病の方でも普通に塩を摂っていました。もちろん自然塩です。

✚ [幸福・愛]

感情・精神の代表項目ですが、ひとことで幸福・愛といっても、様々な段階があります。波動の低い[幸福・愛]は、“自分にとって都合がよければいい”“愛よりも愛情”というレベルです。一方、波動の高い[幸福・愛]は、自分も他人もともに幸せになっていく“愛”のレベルです。

✚ [直観力・直感力]

直観はとても大切なことで、高次元の情報を受信する松果体や右脳もまた同様です。ただ、左脳については、ちょっと誤解があるようです。スピリチュアル系のひとのなかには、論理的な左脳は邪魔だ、と考える方もおられるようですが、右脳と左脳のバランスがとれていない人は、自分本位で社会性がなく、地に足のつかない“夢見る夢男さん夢子さん”になりがちです。特に、劣等感のある人はそうです。

右脳と左脳がタッグを組んでではじめて、中庸の直観が実現されるのではないのでしょうか。やはり、冷徹な思考は不可欠です

なお、[直観力・直感力]の波動が低い場合は、直感力（「幽霊が見える」「明日、地震が起きる」など）、高い場合は、直観力（天や生命の真理に対する洞察）といった違いがあります。

盛りだくさんになりましたが、《あとれとわの塩5年以上》がこの世にもたらされた意味を少しわかっていただけたのではないのでしょうか。

最後に、大切なこと。

製品の波動は、つくった人や会社だけでなく、それを販売する人、使用する人からも影響を受けます。なので、このお塩を尊重して付き合っていていただきたいです。

また、頑張っても無理に広める必要もないでしょう。波動が歪みかねません。このお塩は、“広める”ではなく、“（ふさわしい人に）広まる”お塩なのだと思います。

